

まほろば



2019.4
第212号

『新年度を迎えて』



2月の暖冬の影響で、今年は桜の開花が例年より早まり4月中旬と予想されておりました。しかし3月末から雪が舞う毎日が続き、あっという間に冬に逆戻りという変な天気です。新年度を迎えて一言ご挨拶申し上げます。

さて、当院では4月1日に新しく赴任した職員への辞令交付が行われました。その中で新社会人としてスタートを切ったのは、この春国家試験に合格した医師（初期研修医）9名・看護師9名・検査技師2名と新採用となった事務職員3名です。

本年も新年度にふさわしく多くの若いスタッフを迎える事ができたことに、私はじめ職員一同が心より歓迎しうれしく思っています。

また、診療面では4月より脳神経内科を開設し、脳・神経疾患の診断治療に貢献できることになりました。

新中核病院の整備に関しては、現在基本設計を作成中です。各科・各部門の意見を聴きながら、津軽地域の二次救急を担う急性期病院として今後の当院が果たさなければならない機能を考慮し検討しております。予想では、本年秋頃には基礎工事が始まる予定です。現在の病院機能を下げることなくこの場所に建設を進めるため制約はありますが、市立病院との連携をより強化し進める予定です。患者さんには今後完成までの3年間、ご不便・ご迷惑をおかけすることが多々出てくるかもしれません。一日も早く新中核病院構想が整備され、患者さんのスムーズでより快適な受け入れが可能な体制を作るために、安全面に考慮しスピード感を持って進めたいと考えています。なにとぞご理解のほど宜しくお願いします。

弘前病院 特別統括病院長：藤 哲



院内コンサートを開催

例年より雪どけが早く感じられる3月7日に豚乙女（ぶたおとめ）の皆さんによる院内ライブが行われました。メンバーは人間の姿をしたランコさん、白熊のコンプさん、猫のパプリカさん、うさぎのランコの姉さんの4人？編成のユニットです。パプリカさんは弘前市出身で凱旋ライブの意味合いもあり、期待が高まる中、会場には多くの患者さんが詰めかけました。ライブが始まると患者さんはプロミュージシャンの迫力ある歌声や白熊と

猫による演奏、うさぎのパフォーマンスに圧倒されながらも、軽快な楽曲の連続に手拍子をして楽しんでいる様子が見られました。アンコールも含め、あっという間に約30分間のコンサートが終了し、患者さんからは「楽しかった」「入院生活は長く感じるので、こういう機会があるとうれしい」といった声が聞かれ、バンドの皆さんからも「患者さんに喜んでいただけて良かったです」と言っていたさき、とても有意義な時間となりました。

経営企画室長：佐藤 栄治

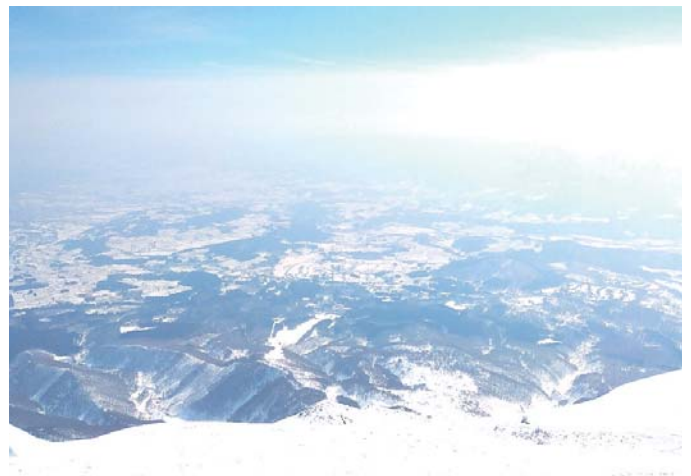
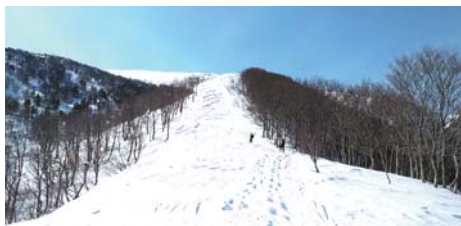


春の岩木山～赤倉登山道より～

青森県最高峰であり、津軽地域の象徴ともいえるお山、岩木山。冬の間は積雪と強風でなかなか人々を寄せつけませんが春の岩木山は厳冬期よりは気象や雪質は比較的安定しており、多くの人々が登山やスキー・スノーボード等を楽しんでいます。一足お先に3月上旬、現存する5本の登山道のうち岩木山の北東に位置する赤倉登山道から登りました。赤倉登山道は33の観音像が点在する信

仰の道です。この時期はまだ登山道も観音様もほとんど雪の下なので地図とコンパスを頼りに地形を確認しながら進みます。快晴無風で歩いていると少し暑い位でしたが景色は最高でした。山頂からは津軽平野の雪景色が一望できました。これからの季節は雪解けも進み、連休あたりからは山菜のシーズンですね。食いしん坊な筆者は今からそれが楽しみで仕方ありません。

作業療法士：小田桐 早紀



新採用者オリエンテーション

4月1日新しい元号「令和」の発表の日、当院も新しい仲間を迎えました。待ち遠しい春もちょっと遠ざかったかのような寒い雪の日となりましたが、当院の医療に関わる職種を超え一同に会した新採用者オリエンテーションでは、病院の概要から始まり、医療安全、感染管理、地域医療連携体制、更に中核病院に向けて等、多くのことについて学びました。

看護部では9名の新人を迎え、3日目から看護の専門的知識を学び、更に採血や注射、医療機器

の操作など実際に使用している物品を使用し、基礎看護技術の演習を行いました。

新人は、緊張で手がふるえたり、うまくできなくて悔しそうな表情をするなど、様々な表情を見せていましたが、患者様に安全に確実に看護技術を提供するために、皆日々真剣なまなざしで、一生懸命取り組んでいました。将来の医療現場を牽引していただく若いうちの熱いパワーを大切に、今後大きく成長していくことを願い、これからも支援していきたいと思えます。

教育担当看護師長：秋元 美穂子



先輩看護師から指導を受けて。

他職種からの講義も多く取り入れての研修です!!

新採用研修医を迎えて

今回新たな基幹型施設として8名と大学関連施設として1名の合わせて9名の新たな初期研修医を迎えることとなりました。

専門医制度審議機構によるよりわかりやすい診療を追求した新たな後期研修医制度への移行が制度化され、この3月に本院から基幹型施設として7名の後期研修医を輩出したところではありますが、引き続き医師の偏在、働き方改革といった医療を取り巻く環境には問題が多く、変革の波が押し寄せております。

医療の本質は時と場所によらず普遍的であるべきですが、現在のこの地域において当院は、研修教育施設として大学と連携しつつも、より専門的であるより

は、より総合的・全人的な医療、より地域に密着した形での医療を行う必要があり独自の役割を果たしていくことが求められております。

後期研修医制度が専門性の高い研修であるのに対して、それ以前の卒後2年間は初期研修医制度であり、初期対応、救急医療の研鑽を積むことが指針として示されています。当院においても教育研修の場として、新たな9名と、2年目の6名の

研修医とともに、上級医・指導医も含め互いに切磋琢磨し、全員一丸となってよりよい医療を提供できるよう努力していく所存ですので皆様方のご理解・ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

臨床研究部長：

石黒 陽



外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (平成31年4月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本 秀樹	横田 貴志	熊本 秀樹	熊本 秀樹	熊本 秀樹
呼吸器科		中川 英之	山本 勝丸	中川 英之	山本 勝丸	中川 英之
		山本 勝丸	下山 垂矢子	下山 垂矢子	下山 垂矢子	下山 垂矢子
		下山 垂矢子	田中 佳人	田中 佳人	-	田中 佳人
		-	石岡 佳子	-	-	-
消化器・血液内科		松木 明彦	相原 智之	相原 智之	松木 明彦	相原 智之
		山口 公平	山口 公平	松木 明彦	山口 公平	山口 公平
		佐藤 年信	千葉 裕樹	佐藤 年信	山下 覚	佐藤 年信
		石黒 陽	石黒 陽	千葉 裕樹	石黒 陽	石黒 陽
脳神経内科		廣畑 美枝	清野 祐輔	-	清野 祐輔	清野 祐輔
小児科		杉本 和彦	佐藤 工	敦賀 和志	佐藤 工	杉本 和彦
		敦賀 和志	松本 麻希	佐藤 啓	杉田 梓	佐藤 啓
		杉田 梓	藤岡 彩夏	藤岡 彩夏	松本 麻希	藤岡 彩夏
外科		柴田 滋	内田 知顕	柴田 滋	内田 知顕	三上 勝也
		-	堤 伸二	堤 伸二	-	-
乳腺外科		小田桐 弘毅	小田桐 弘毅	小田桐 弘毅	小田桐 弘毅	小田桐 弘毅
整形外科	午前	岩崎 宏貴	秋元 博之	秋元 博之	中村 吉秀	秋元 博之
		藤田 有紀	中村 吉秀	岩崎 宏貴	藤田 有紀	岩崎 宏貴
		猿賀 達郎	藤田 有紀	猿賀 達郎	-	佐々木 静
脳神経外科		-	-	木村 正英	-	-
皮膚科	午前	熊野 高行	佐藤 正憲	佐藤 正憲	熊野 高行	熊野 高行
		佐藤 正憲	熊野 高行	熊野 高行	佐藤 正憲	佐藤 正憲
	午後	● 予約	● 手術/検査	● 予約	● 手術/検査	● 予約
泌尿器科	午前	成田 拓磨	成田 拓磨	成田 拓磨	成田 拓磨	成田 拓磨
	午後	検 査	検 査	手 術	検 査	手 術
産婦人科		飯野 香理	金森 正紘	松村 由紀子	● 妊婦健診 (一般外来休診)	飯野 香理
		松村 由紀子	丹藤 伴江	丹藤 伴江		追切 裕江
眼科		蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義
耳鼻咽喉科		西澤 尚徳	西澤 尚徳	西澤 尚徳	西澤 尚徳	西澤 尚徳
		野村 彩美	松下 景	-	-	-
放射線科	診断	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄
	治療	-	-	川口 英夫 (午後)	-	川口 英夫 (午後)
女性専用外来		杉本 菜穂子(※予約制/第1・第3水曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		-	-	-	休 診	-

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

※ セカンドオピニオン外来は当分の間休診となります。

今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

白帽や 希望ふくれる 春の花 (石沢)
 入院に 付き添い願う 母子かな (まゆり)
 春迎え 回復の兆し 医師の声 (キーボ)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：副院長 小田桐 弘 毅

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
 TEL 0172-32-4311
 FAX 0172-33-8614
 URL <http://www.aoi-mori.net/~hirosaki/>